

145 国際人権関係文献目録

告の示唆するもの」(『大原社会問題研究所雑誌』376号)

川島慶雄「国際法における外国人の地位—現状と展望」(『月刊大阪労働』1990年7月号)

後藤勝喜「外国人、と社会保障ILO『機会均等(社会保障)条約』の意義とその法

理」(『季刊労働法』153号)

駒井 洋「欧米で進む外国人労働者の人権擁護根底に 価値の多様性の積極的な肯定」

(『エコノミスト』2886号、2月20日)

<特集> 「外国人の人権が危うい」(『法学セミナー』428号)

<特集> 「外国人労働者問題を考える」(『労働調査時報』800号)

◀ 留学生問題 ▶

<単行本>

石附 実『日本の対外教育—国際化と留学生教育』(東信堂)

◀ 『ちびくろサンボ』と人種差別 ▶

<単行本>

子どもの本の明日を考える会『ちびくろ・サンボ』はどこへいったの?』

径書房編『ちびくろ・サンボ』絶版を考える』(径書房)

<論文>

内野正幸「人種差別を助長する表現の自由? 『ちびくろサンボ』」(『法学セミナー』

425号)

<特集> 「『ちびくろサンボ』と人権」(『教育』517号)

<特集> 「日本のなかの黒人差別」(『部落解放』301号)

## ◀ロマ・シンティ問題▶

## 〈単行本〉

木内信敬『ジプシーの謎を追って』(筑摩書房)

## 〈論文〉

「欧州統合とジプシー 92年に向け動きはじめた120万人の放浪民族」(『ニューズウィーク』187号)

ドイツ・シンティ・ロマ中央委員会「ドイツ少数民族解放基本法のための覚書」(『ヒューマンライツ』30号)

金子マートン「オーストリアでロマ民族の組織結成」(『ひょうご部落解放』39号)

## ◀アジアの人権▶

## 〈単行本〉

アジア市民フォーラム編『アジアの草の根ネットワーク』(学陽書房)

あるすの会編『ラーバン事件の告発 闘ったフィリピン女性たち』(拓植書房)

石塚友子『アジアへの家庭訪問 日本語学校の留学生と教師の記録』(教育史料出版会)

島田昱郎『悲劇の島・東チモール その自然と人びと』(築地書館)

パスク・ボンパイチット『マッサージ・ガール タイの経済開発と社会変化』(同文館)

## 〈論文〉

有光 健「アジア人権基金設立への協力を」(『月刊社会党』411号)

青木 公「少数派住民のマリオとアイヌの接点」(『朝日ジャーナル』1635号)

蔵田雅彦「アジアのマイノリティを訪ねて 難民、この選ばれし人々」(『季刊汎』14号)

辛 基秀「被差別民衆の連帯描く一鄭東柱著小説『白丁』」(『ヒューマンライツ』22号)

鈴木雄雅「マス・メディアとマイノリティーオーストラリアの場合」(『部落解放研究』72号)

田総 哲「ILOのアジア・太平洋地域における労働者教育活動」(『世界の労働』40巻2号)

〈特集〉「セクシャル・ハラスメント—アメリカと日本」(『ヒューマンライツ』27号)

〈特集〉「アジア・大洋州の差別と人権」(『部落解放研究』71号)

「座談会 アジア・大洋州の地域的人権保障をめざして」(『部落解放研究』72号)

〈海外レポート〉「中国民族と民族政策」「雑居地区の民族事業に積極的に取り組み近代化に役立とう」「社会と歴史を乗り越えた涼山の彝族」(『部落解放研究』75号)

## ◀日本の戦争責任▶

## 〈単行本〉

宇野淑子『離別の45年 戦争とサハリンの朝鮮人』(潮出版社)

戦争犠牲者を心に刻む会編『くアジアの声第4集』日本軍はフィリピンで何をしたか』(東方出版)

高木健一『サハリンと日本の戦争責任』(凱風社)

中野茂樹『植民地朝鮮の残影を撮る』く岩波ブックレットNo.165』(岩波書店)

山本将文『写真報告サハリンの韓国・朝鮮人』(東方出版)

## 〈論文〉

梅原季哉「くニュースインターフェース」基金 日本の戦争責任を糾した在韓被爆者」(『朝日ジャーナル』1642号)

辛 基秀「悪夢の時代と朝鮮人強制連行—住友金属鴻之舞鉱業所(北海道紋別市)」(『ヒューマンライツ』31号)

増子義久「運ずぎた『戦後責任』—鹿島建設が『花岡事件』で謝った本当の理由」(『月刊 Asahi』16号)

## ◀外国人労働者問題▶

## 〈単行本〉

江口 幹『パリ、共生の街 外国人労働者と人権』(径書房)

江橋崇綱『外国人労働者と人権 日本・タイ関係研究の現場から』(法政大学出版局)

関東弁護士会連合会編『外国人労働者の就労と人権』(明石書店)

青峰社編『東京難民戦争・外国人労働者問題が喚起するものく同時代批評ブックレット3』

田中 宏『虚妄の国際国家・日本—アジアの視点から』(風媒社)

田畑茂二郎監修 仲尾宏編著『国際化社会と在日外国人の人権』(京都国際交流センター—発行、明石書店)

布施直春『改正出入国管理法と外国人労働者の雇用の実務 採用、技術研修から解雇まで』(労働基準調査会)

部落解放研究所『自由・平等・博愛を求めて アジア・ヨーロッパの外国人労働者と少数民族』(反差別国際運動)

日本ILO協会『海外からみたニッポンの労働像 主要12か国の調査結果』

## 〈論文〉

〈特集〉「く国際労働問題シンポジウム」外国人労働者問題とILO—ILO条約・勸

現状』(尚学社)

## 〈論文〉

鈴木みどり「男女平等へと変革する世界の放送界」(『放送レポート』101号)

野瀬久美子 有馬真喜子「〈対話〉変わってきた世界の女性たち」(『あいふおーらむ』61号)

## ◀人種差別撤廃条約▶

## 〈単行本〉

内野正幸『差別的表現』(有斐閣)

金東勲『解説 人種差別撤廃条約』(解放出版社)

## 〈論文〉

内野正幸「人種差別撤廃条約4条と差別的表現の禁止」(『部落解放研究』70号)

林 瑞枝「人権を考える9 2つの差別撤廃条約」(『時の法令』1367号)

## ◀開発と人権▶

## 〈単行本〉

鷺見一夫『ODA援助の現実』(岩波新書)

鷺見一夫『きらわれる援助 世銀・日本の援助とナルマダ・ダム』(築地書館)

土井たか子 村井吉敬 吉村敬一著・訳『ODA改革 カナダ議会からの提言と日本の現状』(社会思想社)

松井やより『市民と援助 いま何ができるか』〈岩波新書〉(岩波書店)

村井吉敬 ODA調査研究会『無責任援助ODA大国ニッポン』(JICC出版局)

## 〈論文〉

大西裕子「熱帯林の法を考える3 先住民の人権と私たち」(『法学セミナー』420号)

喜多裕二「ECと開発NGO」(『政治統合に向かうEC』、日本国際政治学会)

〈特集〉「開発援助と人権」(『部落解放』309号)

## ◀アメリカと人権▶

## 〈単行本〉

柏木宏著『セクシュアル・ハラスメント 米国の法律と現状』(日本太平洋資料 ネットワーク)

自由人権協会『情報公開法をつくらう アメリカ情報自由法に学ぶ』(花伝社)

竹間享次『戸籍のない国アメリカ』(研究社出版)

DPI日本会議『「アメリカ障害者法」とは何か』

## 〈論文〉

「黒人、米国政治の主流に NY市長、バージニア州知事も」(『アエラ』50号)

アントンほか「座談会・黒人が見たニッポン 日本人はなぜ『壁』をつくるのか」(『朝日ジャーナル』1663号)

有田利二「『黒人差別をなくす会』の小さな取組み」(『ヒューマンライツ』24号)

石 朋次「米国の日本企業とアフリカ系アメリカ人」(『ひょうご部落解放』38号)

石 朋次「在米日系企業とマイノリティ」(『ヒューマンライツ』20号)

柏木 宏「国籍を超えた被差別グループの連帯 日米マイノリティ会議から」(『朝日ジャーナル』1650号)

柏木 宏「混迷するアファーマティブ・アクション」(『部落解放』302号)

柏木 宏「人種差別に揺れた全米プロ」(『部落解放』315号)

小池隆司「米国で勢力伸ばす極右グループ『スキンヘッド』—白人至上主義運動の再興に警戒心高める少数民族」(『世界週報』3452号)

「梶山法相発言に米の黒人指導者が激怒『日本は世界の半分を敵にするぞ!!』」(『週刊朝日』3827号)

「少数民族を使えない企業は脱落する 21世紀には労働市場も激変、生き残りをかけた米企業の対策を見る」(『ニューズウィーク』216号)

野村かつ子「新たな企業哲学求める米国の消費者運動 企業はパブリック・インタレストにどう応えるか」(『エコノミスト』2912号)

マイケル・デリカット「在米日系企業の雇用問題と連邦差別禁止法」(『NBL』437号)

矢部 武「日系企業はなぜ『人間の顔』を持っていないのか カネを出すなら、カオも出せ」(『エコノミスト』2912号)

林 淳萬「死後なお安らぎのないアメリカインディアン」(『ヒューマンライツ』26号)

## ◀カナダと人権▶

## 〈単行本〉

新保 満『カナダ社会の展開と構造』(未来社)

加藤普章『多元国家カナダの実験 連邦主義・先住民・憲法改正』(未来社)

## 〈論文〉

鈴木 滋「カナダ・多文化主義法」(『外国の立法』28巻5号)

村松泰子「カナダ放送界における差別撤廃にむけての動向」(『部落解放研究』72号)

## 〈論文〉

〈特集〉「進まぬ日本の内なる国際化」(『アップデート』17号)

河村欣二「尾を引いた『新世界情報秩序』問題 第25回ユネスコ総会に参加して」(『新聞研究』463号)

シューラ・ケーニヒ「『人権教育の10年』に取り組もう」(『ヒューマンライツ』27号)

柴山健太郎「西ドイツ社会民主党の新しい基本綱領草案」(『部落解放研究』70号)

庄司克宏「ECにおける人権保護政策の展開」(『政治統合に向かうEC』、日本国際政治学会)

滝鼻早雄「芦部信喜氏(国際人権法学会理事長)に聞く」(『法学セミナー』422号)

西川 潤「地球化時代の平和・開発・人権」(『ヒューマンライツ』23号)

〈特集〉「世界の少数民族」(『文化人類学』7号)

ミリアム・シュライバー「国連人権委員会ジュネーブ会合(1月29～3月9日)に参加して」(『部落解放研究』74号)

村松泰雄「『特殊な国』を増幅する梶山法相の発言の重み」(『朝日ジャーナル』1666号)

J・モラー「久保田氏をしのぶ」(『ジュリスト』943号)

## ◀反アパルトヘイト▶

## 〈単行本〉

ジョナス・グワングワ『アマンドラ 南アフリカからのメッセージ』(かもかわ出版)

世界人権宣言大阪連絡会議『アパルトヘイト否! 国際美術展インおおさか』報告集』

ドナルド・ウッズ『イラスト・ノート アパルトヘイト問題入門』(第三書館)

日本反アパルトヘイト委員会編『反アパルトヘイト・アジア・オセアニア・ワークショップ記録集』

日本ユネスコ協会連盟 くぼたのぞみ『まんがアパルトヘイトの歴史』(日本評論社)

ヘニング・メルバー編 ナミビア独立支援キャンペーン・京都訳『わたしたちのナミビア』

ナミビア・プロジェクトによる社会科テキスト』(現代企画室)

ファティマ・ミーア『ネルソン・マンデラ伝』(明石書房)

## 〈論文〉

くぼたのぞみ『『マパンツラ』はソウユトの匂いがする』(『ヒューマンライツ』29号)

〈特集〉「サラフィナの声」(『シネ・フロント』159号)

〈特集〉「白く濁いた季節」(『シネ・フロント』161号)

「アパルトヘイト廃止をめざす交渉と闘争」(『世界政治』820号)

〈特集〉「マンデラ氏釈放と南アフリカ情勢」(『世界政治』809号)

林 晃史「マンデラ釈放後の南アフリカ共和国」(『アフリカレポート』11号、アジア経済研究所)

堀江浩一郎「独立へ歩み始めたナミビアの苦難 人民機構(SWAPO)と南アとの闘いの中で」(『エコノミスト』2866号、96号)

峯 陽一「真の解放への大きな一歩—ナミビア独立選挙報告」(『部落解放』304号)

## ◀死刑廃止条約▶

## 〈単行本〉

アムネスティ・インターナショナル『死刑と人権』(成文堂)

菊田幸一『死刑廃止を考える』〈岩波ブックレットNo.166〉(岩波書店)

## 〈論文〉

阿部浩己「国際人権法における死刑廃止—国連死刑廃止議定書の成立」(『法律時報』759号)

イエーガー「復讐からは何も生まれない 被害者の遺族が語る死刑廃止」(『法学セミナー』423号)

覚正豊と「死刑廃止をめざす国連の議定書—明らかになった国際社会の潮流」(『月刊社会党』410号)

辻本義男「国連、死刑廃止条約を採択」(『月刊状況と主体』170号)

福田雅章「死刑を廃止できない日本社会の論理」(『法学セミナー』428号)

## ◀被拘禁者の人権▶

## 〈論文〉

五十嵐二葉「あらゆる形態の拘禁・収監下にあるすべての人の保護のための原則」(『法律時報』760号)

永野貫太郎「国際人権規約と刑事政策」(『自由と正義』41巻9号)

戸塚悦朗「国連人権委員会と人権擁護活動」(『部落解放研究』71号)

庭山英雄「英米刑事司法と狭山事件」(『部落解放研究』70号)

## ◀女性差別撤廃条約▶

## 〈単行本〉

赤松良子ほか『女の力はどう変わる? 女子差別撤廃条約10年をへて』〈岩波ブックレット149〉(岩波書店)

伊東すみ子『女性・人権・NGO いま世界の人権は』(尚学社)

国際女性の地位協会編『女子差別撤廃条約 国際化の中の女性の地位』(三省堂)

国際女性の地位協会編『世界から日本へのメッセージ 女子差別撤廃条約と日本女性の』

## 資料

## 国際人権関係文献目録

(注) 以下の目録は本号特集の一環として、概ね1989年10月から1990年10月に発表された著書・論文で、部落解放研究所が収集したものを対象に、テーマごとに分類したものである。基本的には編著者の50音順で配列した。

## ◀ 総論 ▶

## 〈単行本〉

- アップデート編集部編『日本人は国境を越えられるか』(ほんの木)  
 アムネスティ・インターナショナル日本支部 谷川俊太郎『世界人権宣言』(金の星社)  
 犬養道子『個人と国と国際と』〈岩波ブックレット№164〉(岩波書店)  
 岩崎駿介編著『地球人として生きる』〈岩波ジュニア新書166〉(岩波書店)  
 久保田洋『久保田洋遺稿集 人間の顔をした国際学』(日本評論社)  
 久保田洋『入門国際人権法』(信山社)  
 小林洋一郎『国際化時代の企業と人権』(解放出版社)  
 澤田昭夫 門脇厚司編『日本人の国際化 「地球市民」の条件を探る』(日本経済新聞社)  
 ジェームズ・P. グランド『世界子供白書』(日本ユニセフ協会)  
 ジェド・ジェアー写真『すべて人は、BORN FREE & EQUAL』(ほんの木)  
 ジャン・モランジュ著 藤田久一・藤田ジャクリーン訳『人権の誕生—フランス人権宣言を読む』(有信堂)  
 ジョージナ・アシェワース編『世界の少数民族を知る事典』(明石書店)  
 高野雄一『現代国際法 人間の顔をもつ国際秩序』(北樹出版)  
 田畑茂二郎編『国際人権条約・宣言集』(東信堂)  
 友永健三『人権とは? 国際人権規約と日本』(解放出版社)  
 友永健三『水平線にいま 反差別国際連帯をめざして』(解放出版社)  
 日本ユネスコ協会連盟『未来への贈りもの 世界とともに歩む子どもたちへ』〈ユネスコ・ブックレット11〉  
 反差別国際運動日本委員会『〈現代世界と人権1〉 国連とマイノリティーの人権』(解放出版社)  
 法務省人権擁護局内人権実務研究会編『人権保障の生成と展開 世界人権宣言40周年記念論文集』(民事法情報センター)  
 山内昌之『瀕死のリヴ: イアサン ペレストロイカと民族問題』(ティービーエス・ブリタニカ)